

奏端

*Atsuya Okuda
played Jinashi nobe Shakuhachi*



UNAMAS

Sawaguchi
Ongaku Kobo

HQ
192-24

奏譚 — SO-ZEN

1. 古伝巢鶴 Koten suzuru (6:07)
2. 本手之調 Honte no Shirabe (3:19)
3. 練薩慈 (ネリサジ) Nerisaji (8:53)
4. 虚鈴 Kyorei (8:57)
5. 降り葉「変(替)手・かえで」 Kudariha-kaede (2:46)
6. 息観 Sokkan (5:08)
7. 三谷 Sanya (6:37)
8. 別伝・鹿の遠音 Betsuden Shika no Tohne (11:02)
9. 深夜 Shinya (7:43)

曲解説

1. 古伝巢鶴 別名「五段巢鶴」ともいい、「巢籠因縁経」の鶴が雛を育てるためには我が身の肉を割いてまでという、親が心身を砕き尽くして子どもを育てる、趣意を表現したと伝えられている。
2. 本手の調 長い期間かけて精進する曲で、呼吸の奥深さをあらためて知らされる。遠州浜松の鈴鐘山普大寺伝承の曲や、京都の虚霊山明暗寺伝も大同小異。
3. 練薩慈 黒田藩の侍で、九州博多一朝軒にも竹箆を置いた牧新七(通り名)が開祖としてつたえられる。現在では、薩慈として、それぞれ「ボウざじ」「ユリざじ」「ネりざじ」の三曲が伝承されている。薩慈とは菩薩の慈悲を示し、大乘精神を現すともいわれる。薩慈の「真」「行」「草」のうちの「草」は練りに練り込んだ最も難曲なので「ネりざじ」と称される。
4. 虚鈴 この曲は「虚霊」とも称され、普化宗最重要の古曲である。
5. 降り葉「変(替)手・かえて」.....九州系伝承曲で、本手と変(替)手があり、本収録曲は、変(替)手である。
6. 息観 竹藪の朽ちた竹に風が吹き込むのと同様な味わいを、その境地とした調べである。息と風と竹による観の世界。
7. 三谷 もともとこの名称は托鉢をするという意味から発しているとの説がある。
8. 別伝・鹿の遠音 山野に棲むしかを鳴き声や野山を駆ける様など、その生態を中心に展開する調べ。4オクターブもの音域を使う難曲である。
9. 深夜 深い閑寂を湛えた反面、明るい夜明けへ至る悟道の姿を現している。

「奏禅」アルバム制作に寄せて by Atsuya Okuda

本来、日本の伝統楽器に忘れてはならないものに、「サワリ」がある。「サワリ」とは蝉に鳴く音と等しく自然に近いものであり、一つの音自体が非常に複雑で、噪音にも近く、自然界のいろいろな音と融合するものである。音色とは、この「サワリ」も含め、風鈴が一つ鳴っただけでも美しさを感じるものであり、梵鐘の音を聞いても、美しさだけでなく、無常感をも感じさせるものである。今回使用の「地無し延べ尺八・法竹(ほっちく)」の魅力は、この「サワリ」を含んだやわらかな深みのある音質である。

現在一般に普及している楽器としての「中継ぎ地有り尺八」は、合奏に適した律と音量を求めることで「音色」を調整してしまった。

「サワリ」を含んだ、自然に近い法竹には、古来より日本人に慕われてきた「遠音(とおね)」の響きがあり、不思議なものでゆっくりとした音の立ち上がりや、極めて細く小さい音でもけっしてそれが消えることは無い。むしろ「音色」の味わいや趣は、音量と反比例して増してくるともいえる。



奥田 敦也 ATSUYA OKUDA

1945年生まれ。

JAZZ Trpとして1965年から20年活動後、独自の音世界を構築すべく日本古来の「法竹」(Jinashi nobe Shakuhachi)に無限の可能性を見だし研鑽、現在に至る。

1985年 東京都国分寺市に自らの修行と指導の場として「禅茶房」を開設。

2003年より、スイス/オーストリア/カナダ/アメリカ/イギリス/フィンランドなどで公演やワークショップを精力的に行う。自然な竹から生まれる法竹の魅力に引かれた弟子は海外からも多くが禅茶房の門をたたいている。自然の竹をそのままに楽器として演奏するには高度な技量と精神性が求められ余分なものをそぎ落としていく「禪」の思想と共鳴する。1992年に死去した「わたずみどうそ」の精神性を唯一受け継ぐ法竹奏者である。

2002年 CD「禪の音」で文化庁芸術祭参加。

従来の録音では飽き足らなかったため録音を断念していたが今回Mick Sawaguchiの提唱するコンセプト「サラウンド スケープ」という新たな表現と音響品質に共感し、コラボ作品が誕生することとなった。

自然に近い楽器といえる法竹には、古来より日本人に慕われてきた「遠音(どおね)」の響きがあり、不思議なものでゆっくりとした音の立ち上がりや、極めて細く小さい音でもけってそれが消えることは無い力を持っている。今回Mick Sawaguchi氏の提唱するコンセプト「サラウンド、スケープ」という新たな技術表現と、私の法竹がコラボレーションすることで、各々が相乗効果をもたらした、「遠音」が顕現されたことに、驚きと喜びを感じている。



HQ

192-24

192-24BIT録音

解説 by Mick Sawaguchi UNAMAS HUG

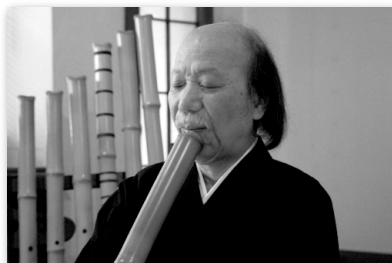
今回は、法竹という尺八の原型(地なし延べ管尺八)を192KHZ-24bitサラウンドで録音した。演奏の奥田敦也氏が発する音は、まさに気配に近く、時に息を潜めときに空気が噴出するダイナミックレンジの広さが特徴でエンジニアには、挑戦的な楽器である。最良の演奏環境をスタジオの中でどう構築するかを優先に検討し、結果日東紡AGSの改良版を前日制作していただき空気の波動を聴音することができた。後は、いつもの機材選定で、今回は、Microtech Gefell UM-900とリボンマイクR-122をメインにサラウンドマイクは、CO-100Kという組み合わせでPYRAMIX DAWへ収録した。

その為に用意した機材は、以下のラインナップである。

マイクフォン： Microtech Gefell UM-900
Royer R-122 Sanken CO-100K,
マイクプリアンプ： SSL 9000J
オーディオインターフェース： RME Fireface UC
DAW： Pyramix Native+MacBook Pro
電源アースノイズ対策： Soundhite
スタジオ音響調音： Nittobo AGS Sound Diffusing Absorber



Recording： 24 April, 2011 at 1st Studio, Onkio Haus
Mixing/Mastering： Mick Sound Lab
Producer/Engineer： Mick Sawaguchi, Sawaguchi Ongaku Kobo Ltd.



Produced by
沢口音楽工房 Mick Sawaguchi

Produce/Engineer by Mick Sawaguchi SANKEN CUW-180 SONOSAX SX-R4 PYRAMIX 6.1and サウンドナイト
〒180-0012 武蔵野市緑町1-2-13 TEL:0422 (53) 8021 UNAMAS:0422 (36) 6252
e-mail: mick-sawa@u01.gate01.com HP: <http://www.unamas.jp/>
Photo : Mick Sawaguchi Design : 大山勝美デザイン室
Illustration : 奥田 麗